

平成 16 年 7 月 30 日

各 位

株式会社 アプリックス

東京都新宿区西早稲田二丁目 18 番 18 号

(コード番号: 3727 東証マザーズ)

代表者 代表取締役社長 郡山 龍

問合せ先 取締役(情報開示担当) 山下 泰

電話番号 03-5286-8436 (人事総務部)

平成 16 年 12 月期中間決算速報並びに通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 16 年 12 月期中間業績速報を公表するとともに最近の業績の動向等を踏まえ、平成 16 年 2 月 12 日付で発表いたしました平成 16 年 12 月期(平成 16 年 1 月 1 日～平成 16 年 12 月 31 日)の通期業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 平成 16 年 12 月期中間決算速報

(1) 平成 16 年 12 月期中間連結業績速報(平成 16 年 1 月 1 日～平成 16 年 6 月 30 日)

(単位: 百万円、%)

	売上高	経常利益	中間純利益
中間決算速報(A)	1,349	28	35
前期(平成 15 年 12 月期中間)実績(B)	2,195	559	551
増減額(A-B)	846	531	516
増減率(%)	38.5	94.9	93.6

(2) 平成 16 年 12 月期中間単体業績速報(平成 16 年 1 月 1 日～平成 16 年 6 月 30 日)

(単位: 百万円、%)

	売上高	経常利益	中間純利益
中間決算速報(A)	1,344	31	27
前期(平成 15 年 12 月期中間)実績(B)	2,049	566	555
増減額(A-B)	705	535	528
増減率(%)	34.4	94.5	95.1

2.平成16年12月期業績予想の修正

(1)平成16年12月期連結業績予想の修正(平成16年1月1日～平成16年12月31日)

(単位:百万円、%)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A) (平成16年2月12日公表)	4,477	1,144	659
今回修正予想(B)	3,455	1,481	1,606
増減額(B-A)	1,022	2,625	2,265
増減率(%)	22.8	-	-
(ご参考) 前期実績(平成15年12月期)	3,934	765	899

(注)連結調整勘定の総額は7,410百万円、当期償却額は販売費及び一般管理費として1,852百万円を見込んでおります。

(参考)1株当たり予想当期純利益(通期) 62,697円63銭

なお1株当たり予想当期純利益は、平成16年12月期中間期末の発行済株式数25,615株に基づき算出しております。

(2)平成16年12月期単体業績予想の修正(平成16年1月1日～平成16年12月31日)

(単位:百万円、%)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A) (平成16年2月12日公表)	4,477	1,155	644
今回修正予想(B)	3,230	317	188
増減額(B-A)	1,247	838	456
増減率(%)	27.8	72.5	70.8
(ご参考) 前期実績(平成15年12月期)	3,777	801	963

(参考)1株当たり予想当期純利益(通期)7,339円44銭

なお1株当たり予想当期純利益は、平成16年12月期中間期末の発行済株式数25,615株に基づき算出しております。

3.平成16年12月期中間業績の概況速報

平成16年12月期中間連結業績については、ES事業において平成16年第1四半期末までに締結に至らなかった案件を契約することが出来ましたが、市場環境の変化により想定していた金額には至らずES事業の売上は1,276百万円となります。CS事業の売上72百万円と合わせると売上高は1,349百万円となり、支払利息や新株発行費の負担で経常利益が28百万円、法人税等調整額の発生により中間純利益が35百万円となります。

平成16年12月期中間単体業績についても連結業績と同じ状況にあり、ES事業の売上が1,271百万円、CS事業の売上が72百万円、合わせて売上高1,344百万円となり、支払利息や新株発行費の負担で経常利益31百万円となります。子会社アプリックス・ドット・ネット株式会社の解散に伴い特別損失14百万円が発生して、中間純利益は27百万円となります。

4.平成 16 年 12 月期業績予想の修正理由

平成 16 年 12 月期（当期）連結業績につきましては、平成 16 年 2 月 12 日の決算短信（連結）発表時に売上高 4,477 百万円、経常利益 1,144 百万円、当期純利益 659 百万円と予想しておりましたが、売上高については以下の理由により当期連結売上高 3,455 百万円に修正いたします。また中華民国（台湾）の iaSolution Inc.株式の取得（子会社化）に伴う連結調整勘定償却 1,852 百万円の発生により、経常損失 1,481 百万円、当期純損失 1,606 百万円に修正いたします。

ES 事業売上につきましては、この平成 16 年中間期までに同年 12 月期第 1 四半期中に契約締結に至らなかった前払いロイヤリティを含む案件 2 つは契約することが出来ましたが、市場環境の変化により、予想していた金額に至らず修正要因の 1 つとなりました。

平成 16 年中間期に直面した市場環境の変化には 2 つあります。一つは前払いロイヤリティの減少です。当社では今後も前払いロイヤリティは減少していく傾向にあると見ています。これはロイヤリティ単価の価格弾力性が小さくなってきており、ロイヤリティをまとめて前払いすることによる顧客サイドの単価削減効果が低くなってきているためです。もう一つは海外の移動体通信事業者に対する独自仕様策定に伴うコンサルティング等の技術支援売上の減少です。これは、独自に仕様を策定していた海外の移動体通信事業者が標準化機関によって策定された仕様を採用する方向に進んでいるためです。

平成 16 年 12 月期の主な修正要因は以下の通りです。

（1）一部顧客の出荷遅延

一部顧客において、当社の製品供給に起因しない要因によって 1 四半期間、製品出荷が遅れ、平成 16 年 12 月期中に発生すると見込んでいた追加の後払いロイヤリティが次年度にずれ込むと予測しております。当該顧客の製品出荷はその後順調に進んでおり、今後の売上は順調に推移すると予測しております。

（2）標準化機関によって策定された仕様の採用拡大

標準化機関によって策定された仕様の採用拡大により、海外の移動体通信事業者に対する技術支援売上は減少するものとして予測しております。ただし、仕様の標準化によって、開発リソースの効率的な運用と海外での出荷数量の増加が見込めるため、長期的には売上の増加と収益性の改善に貢献すると見込んでいます。

（3）移動体通信事業者との共同開発

現在、移動体通信事業者との共同開発を目指しております。共同開発が実現した場合、短期的には開発費の増加と一部製品採用の見送りによる売上の遅延が発生する可能性があります。長期的には新規顧客の獲得による採用製品と出荷数量の増加および開発効率の改善によるコスト削減によって、売上増と共に利益の改善が実現できると予測しております。

（4）前払いロイヤリティの減少

前払いロイヤリティの減少に関しては、短期的には売上の遅延が発生します。しかし、長期的には収益性の維持に貢献すると予想しております。なお、前払いロイヤリティによる業績の変動を無くすために、前払いロイヤリティの売上の計上方法についても今後の傾向を見ながら検討していきます。

（5）特定プラットフォームおよび汎用 OS への対応の遅れ

特定プラットフォームへの対応の遅れにより、一部顧客にて海外向けの大きな案件の失注がありました。海外の移動機メーカーおよび国内メーカーの海外向け製品では、顧客サイドでの開発負担の低減が組み込みソフトウェア選択の重要な要素となっており、例えば各種ベースバンドチップ（音声処理を中心に行うチップ）毎に提供される特定プラットフォームや汎用 OS 用にポーティング（移植）が済んだソフトウェアを提供することが必須となってきています。今後 iaSolution Inc. の開発済み技術を使用することにより、迅速にこのような顧客要望に対応していくことが可能となり、採用を伸ばしていけると見込んでいます。

（６） アジア地域（特に中国）への対応力の欠如

アジア地域（特に中国）への対応力の欠如に関しては既存の体制では限界があり、今後の国際対応の為には米国や欧州同様に各地域にて現地の文化や言語、商慣習に精通したスタッフの確保が必要です。アジア地域にて既に事業展開に成功している iaSolution Inc. と事業を統合していくことにより、iaSolution Inc. の既存顧客だけではなく、新規顧客の開拓も積極的にすすめて、アジア地域での事業を拡大していけると見込んでいます。

（７）非 Java、非携帯電話への事業展開の遅れ

アジア地域の顧客や特定プラットフォーム、汎用 OS への対応、および移動体通信事業者との共同開発によって開発リソースの順当な割当を行うことが出来ず、非 Java、非携帯電話への事業展開が遅れています。今後 iaSolution Inc. の協力により、コストパフォーマンスの高いアジア地域での開発を拡大するだけでなく、iaSolution Inc. が既に持っている優秀な開発スタッフと非 Java 技術を活用することにより、積極的に事業展開していけると見込んでいます。

以上の結果、海外顧客の売上高は、iaSolution Inc. の経営統合による効果を除き、前期の 2 倍の計画が前期の 1.1 倍に留まる見通しです。また 国内顧客売上高は KDDI 用の減少分を輸出が埋めると考えておりましたが、失注の発生、顧客の輸出が想定したほど伸びないこと、および国内顧客の経営変化もあり、前期の 4 分の 3 程度になると見込まれます。また、非携帯電話売上高は前期の倍増を見込んでおりましたが、計画していた新規案件が売上として計上できず、当期は前期程度に留まると予想しております

平成 16 年 12 月期単体業績につきましては、平成 16 年 2 月 12 日の個別財務諸表の概要発表時に売上高 4,477 百万円、経常利益 1,155 百万円、当期純利益 644 百万円と予想しておりましたが、連結業績と同じ状況にあるため、平成 16 年 12 月期単体業績予想を売上高 3,230 百万円、経常利益 317 百万円、当期純利益 188 百万円に修正いたします。

以 上